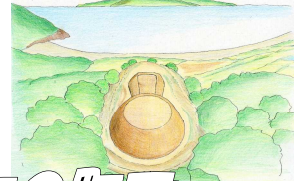


## 文化財保存新潟県協議会・第21回大会

# 「前方後円墳新発見!

# —角田浜で、頸城平野で、あなたの町で...」



今年度の文化財保存新潟県協議会総・大会を以下のように開催いたします。

総会は文化財保存新潟県協議会会員（新潟県内在住の文化財保存全国協議会会員）が年に一度集まり、本会の活動を振り返り、今後の指針を協議する重要な会です。また、大会は広く市民に参加を呼びかけ、遺跡と歴史を一緒に学ぼうという機会です。

4月の新潟日報での報道や「会報」第67号でお知らせしたように、新潟市西蒲区角田浜の日本海を望む角田山麓に新たな前方後円墳が発見されました。橋本博文本会会長を中心とする調査団は、以来、新型コロナ対応に留意しながら測量調査を行ってきており、その正確なプロポーシオンが明らかになりつつあります。思えば新潟平野では、胎内市城の山古墳、新潟市東区牡丹山諏訪神社古墳など新たな古墳の発見が相次いでいます。頸城平野でも妙高市観音平古墳群で前方後円墳が見つかっていますが、これらはすべて今世紀に入ってからの大発見です。

そこで、今回の大会では全国で未知の古墳を発見している新たな手法について、その方法と事例をご紹介しますとともに、県内の新発見古墳の最新情報、そこから読み取れる新たな新潟の古墳時代像について考えます。あなたの町でも、まだまだワクワクするような発見があるかもしれません。

今回の大会は、十分な新型コロナ対策のもとで開催します。ふるってご参加ください。

**と き：2020年11月23日（月・祝）**

**ところ：新潟市万代市民会館・6階多目的ホール**（新潟市中央区東万代町9番1号）

**日 程：総会 11：00～11：30**

**大会 12：30 一般受付開始**

**13：00開会～16：30（終了予定）**

※資料代1,000円をいただきます。  
参加には事前予約が必要です。

感染状況により中止や予定変更場合があります。本会ホームページにてご案内します。感染対策のため、マスク着用や手洗い、手指消毒にご協力ください。発熱や風邪症状など体調不良の方は、入場をお断りいたします。

**講演「新たな前方後円墳の発見—その方法と事例—」**

**藤原好二さん（倉敷埋蔵文化財センター主任）**

**「最新成果から探る新潟地域の前期古墳」**

**橋本博文さん（本会会長・新潟大学名誉教授）**

**報告「角田浜の前方後円墳の測量調査成果報告」**

**川上真紀子さん（本会副会長）・橋本博文さん**

**「頸城平野の前方後円墳」**

**高橋 勉さん（頸北歴史研究会）**

**シンポジウム「新発見の前方後円墳をめぐって」（各報告者ほか）**

**【参加申し込み】** 会場の収容人数は280名ですが、県内の感染状況や会場からの要請により、参加人数を絞り込む場合があります。そのため参加には事前予約（先着順）が必要です。メールまたは往復ハガキで、氏名・住所・電話番号（携帯電話）・メールアドレス（メールでの申込の場合）を必ず明記して事務局までお申し込みください。往復ハガキの場合、返信ハガキの宛名面にはご自身の住所・氏名をお書きになり、返信通信面は白紙のままをお願いします。申込締め切りは11月16日（月）とします。申込受付後、詳細をお知らせします。

## 第20回総・大会「あなたのお宝、どうします？」を開催！

# 歴史資料を見る眼差しを問い直した講演・報告の数々！

川上真紀子



2019年9月29日(日)、みなとびあセミナー室において第20回総・大会が開かれました。大会は「あなたのお宝、どうします？—歴史資料の保存・管理と活用—」をテーマに、様々なかたちで所有・保管されている資料の在り方について実例や取り組みが紹介されました。



まず、新潟市歴史博物館(みなとびあ)の収集資料の様子を副館長の小林隆幸さんから報告していただきました。みなとびあでは研究テーマの関連で考古資料は原則収集していないことを前置きされつつ、その中であって、新潟の歴史を塗り替えた考古資料があったことを報告されました。それが「金塚友之丞関連資料」(寄贈された金塚氏の多岐にわたる収集品)の中から発見された「牡丹山」と注記された埴輪でした。これを展示会で紹介。見学した市民の本間誠さんが明治期の公図の中に古墳のような

### 小林さんによる古墳大発見の裏話

形を発見、牡丹山に古墳がある可能性が高いと考えられるようになりました。そしてついに平成25年、新潟大学の橋本博文教授が牡丹山諏訪神社で埴輪を採集、ここが古墳であると判明しました。この発見は、金塚さんが採集地点を埴輪に注記していたこと、それを博物館が収蔵できたこと、その謎を探ろうと市民や研究者が動いたことが重なって実現できたことでした。

続いて、問題提起として会長の橋本博文さんが「高校アンケート」を使いながら、「考古資料の保存・管理と活用の現状と問題点」と題して話されました。まず、故甘粕健先生の関係資料を例に研究者の残した資料について説明されました。考古遺物以外にも調査日誌や実測図、スライドや新聞の切り抜き、書簡など多くの考古学関連資料があり、甘粕先生の場合は、保存運動にかかわる貴重な資料も含まれています。そのほかに膨大な文献(各地の報告書を含む)があり、行き場のない場合も見られ、保存活用に苦慮していることが報告されました。一方、私たちは遺跡で土器などの遺物を拾うことがあります。この場合も、最終的には行政に保管管理を任せる必要があると指摘されました。県内高校35校に実施したアンケートでは、半数以上の高校で資料を持っていると回答がありました。高校の歴史を示す資料、絵画、書などで、あると答えた高校の28%(5校)が公開、授業で活用している学校も5校のみでした。また、資料室を持っていた上越の私立高校では市からの運営費補助がカットされたため現在は閉鎖しているとのことでした。実際眠っている資料もあるようだという見通しも話され、ときおり起こる遺物投棄事件に注目し、遺物の管理の在り方に常なる関心を払う必要があることを話されました。

続いて「私の歴史コレクション」と題して広瀬秀さんが話されました。広瀬さんは多くの貴重な古文書をお父さんの代から収集されています。しかし、それだけでなく、生活の中で使われている様々な「紙もの」を収集しています。例えばスーパーや映画のチラシ、コースター、マッチ箱、ワインのラベル、飛行機のチケット、列車の切符、駅弁の包装紙、チョコレートの包装紙、箸袋、

たばこ、絵葉書、切手など枚挙にいとまがありません。これらの資料は、私たち新潟に住む者にとっては大切な歴史資料になります。こうした資料をどのように若い世代に伝えるか、広瀬さんも大いに悩んでいるようです。また、休憩時間には大関允良さんのコインコレクションを展示解説していただきました。

最後に「学校資料の保存と活用」と題して浜松学院大学短期大学部の和崎光太郎さんからお話いただきました。学校資料とは学校に関するあらゆる資料をさします。学校の歴史、その地域の歴史を物語る資料です。しかし、全国的に学校の廃校が続き多くの資料が失われています。そこで和崎さんは、京都市学校歴史博物館を拠点に学校資料の持つ面白さや重要性を広く市民に伝える活動を始めました。その一つが縦横の連携を深め、様々な研究成果を集約し、歴史資料の価値を明らかにしていくことです。和崎さんは自ら研究を深め、研究会を立ち上げ仲間を募りました。また誰でも使える「目録」作成を始めました。一般市民をはじめ知りたいことにすぐにとどり着けるような目録を目指しました。そして、学校資料に興味を持っていない市民にも面白さが伝わるような展示や企画を考えました。また、和崎さんは全国に学校資料の大切さを伝え、保存活用する方法を模索、紹介しています。各地の活用の実例をスライドで紹介されました。最後に学校資料に新たな価値を見出し続ける努力と姿勢を強調され、私たちが議論し、発信するべきなのは「資料の選別基準」ではなく、「資料に価値を見出そうとする眼差し」であるとまとめられました

学校資料を含め、個人が収集している資料もすべて私たちの地域の歴史を物語る大切なアイテムです。これらをどのように保存していくのか、考えさせられた一日となりました。

----- 【参加者の感想】 -----

○興味深くお聞きしました。歴史的価値があるかどうか、その見極め、保存等考えさせられました。

「学校資料の保存と活用」の講演をきき、考えさせられた。長野・静岡の事例を見て、新潟県にはどの程度あるのか考えさせられた。今後、どうするか考える必要があると思った。

○講演では、教職員や学校、個人の持つ文化財の例が挙げられ、最後に和崎さんに現在の状況と課題、とるべき解決策などを話していただけて、分かりやすい構成だった。和崎さんの話にあった、市民、研究者、学校、研究会などの連携の場に、文新協がなってくれるとありがたいと思った。

○勤務している高校の資料を何とかしたいと思いつつ、他の仕事にかまけていて何もできていません。今日の和崎先生のお話をきいて、具体的にできることから始めようと思いました。ありがとうございました。ちなみに、本校の書庫で教育勅語を発見しました。

○大変参考になりました。「わたしの歴史コレクション」には驚きました。私も収集癖がありますが、どのように「処分」するか困っています。

○私の歴史ある小学校の母校の資料はどうなってしまったのか……。たしか、私が中学生のころに100周年をむかえたはず。今日の講演をおききして、どうなったのか探することにします。



広瀬さんの豊富なコレクションに驚愕



ユーモラスに実例を紹介した和崎さん

ユーモラスに実例を紹介した和崎さん

【追記】なお、大会に先立ち行われた総会では、「2018年度活動報告」「2019年度事業計画」などの議事が承認されました。また、大会後、会場近くで行われた懇親会も、講師や報告者の方々を囲んで大いに盛り上がりました。ここにご報告させていただきます。(事務局)

## 32,000名の署名を集めた大運動で保存された八幡林遺跡・・・

### 「沼垂城」木簡出土から30年！ 記念事業のおしらせ



トンネルで保存された遺跡(2020年5月)

長岡市(旧和島村)の八幡林遺跡から「沼垂城」と書かれた木簡が出土して、今年で30周年となります。この発見によって、『日本書紀』大化3(647)年の記事に記された淳足柵の存在がほぼ確実にになりました。沼垂城木簡出土30周年を記念し、長岡市立科学博物館では、特別展「八幡林遺跡と淳足柵」を10月3日から12月6日の会期で開催します。

11月22日(日)には、鼎談トーク「八幡林遺跡の回顧と展望 ヌタリノキをめぐる」が行われます。パネリストは、沼垂生まれで淳足柵研究の第一人者・小林昌二さん(新潟大学名誉教授)、同じく沼垂生まれで昨年度まで奈良大学教授であった坂井秀弥さん(公財 大阪府文化財センター理事長)、そして「沼垂城」木簡発掘時の調査担当者だった田中靖さん(長岡市立科学博物館)です。当時の記憶とともに発見の感動がよみがえることでしょう！

問合せ・鼎談トークの申し込みは長岡市立科学博物館まで。詳細はチラシをご覧ください。

### ○沼垂城木簡出土30周年特別展「八幡林遺跡と淳足柵」

会期 10月3日(土)～12月6日(日) [休館日 10/5・19、11/2・16]

時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

会場 長岡市立科学博物館(長岡市幸町2-1-1 さいわいプラザ1階)

### ○鼎談トーク「八幡林遺跡の回顧と展望 ヌタリノキをめぐる」

日時 11月22日(日) 14:00～16:00 会場 さいわいプラザ4階 大ホール

申込 電話で0258-32-0546(長岡市立科学博物館)まで。11/21(土)締切、先着50名

#### 編集後記

新型コロナウイルスの完全な終息にはまだまだ時間を要しそうです。そのような中ですが、新潟市西蒲区角田浜で発見された前方後円墳について、その調査成果や背景をみなさんにご報告する機会をできるだけ早く設けたいと考えていました。そのため、文新協では感染対策に留意しつつ総・大会を開催することとしました。今年度は事前予約が必要です。ご協力をお願いします。

この『会報』は文全協会員でなくても、文新協行事に参加された方には可能な限りお送りしています(ご参加なき場合は郵送を取りやめる場合があります)。名簿は本会からの連絡にのみ使用し、個人情報保護に留意し厳正に管理しています。会報送付がご迷惑な方は事務局までご一報下さい。

文化財保存新潟県協議会事務局(入会についてのお問い合わせも)

電話:090-2735-5536(木村)

E-mail:bun-sin-kyou@js8.so-net.ne.jp

ホームページ: <http://www014.upp.so-net.ne.jp/bunsin-k/>

文全協のホームページ  
もぜひご覧ください。